



食育の推進に関する基本方針

1 基本目標

食を取り巻く環境は、私たちの暮らしの様々な分野に影響を与えています。これらの影響は、健康への影響、心への影響、食の安全への影響、食文化への影響、環境への影響というように大きく5つの分野に分けられます。

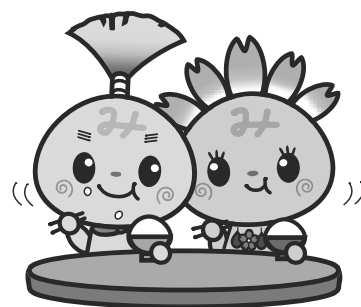
そこで、影響のある5つの分野を基本目標とし、食育によって目指す目標及び進めるべき方向を明らかにします。特に健康については、生涯にわたる各ライフステージで健康課題や健康への影響が異なることから、「基本目標Ⅰ 「健康な体を保つ」ために」については、ライフステージを意識した取り組みを進めます。



「健康な体を保つ」ために

栄養が偏った食事や不規則な食生活が、生活習慣病などの様々な病気を引き起こす主要な原因の一つと考えられています。現状では、バランスのとれた規則正しい食事の実践が十分とはいえません。

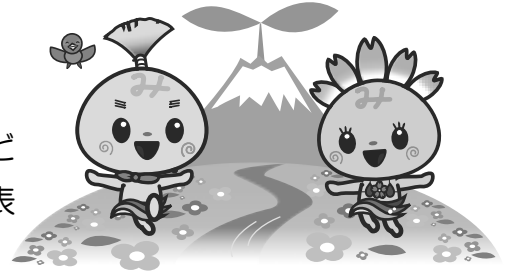
このため、生まれる前から高齢期まで、各ライフステージに応じて望ましい食生活の実践を促進するとともに、生涯にわたる健康を保持・増進するために食と関わりの深い歯・口や骨の健康づくりを進めます。





「豊かな心を育む」ために

核家族化やライフスタイルの多様化などによって、家族団らんで食卓を囲む機会の減少や食事を通じたしつけや家庭の教育力の低下がみられ、子どもたちのコミュニケーション能力の低下や感情表現の未熟さ、心の不安定さに影響しています。



現状では、朝食を家族そろって食べる人の割合が低くなっており、このため、家族団らんの機会を通じ、家族の会話や調理体験など楽しい食の確保について働きかけます。また、家庭教育の一環として、食育により子どもの健全な心身の育成を支援します。



「食の安全・安心」のために

食に関する多くの情報が氾濫する中、産地や期限の偽装表示、輸入食品への化学物質混入、食中毒の発生などの衛生管理や東日本大震災以降の放射能汚染食物に対する不安が広がっています。また、大きな災害が発生した場合、食料をどのように確保するかなどの問題が起こります。



安全な食生活を営む上では、一人ひとりに食品の安全性に関する基礎的な知識の習得が求められますが、現状ではその知識がある人は約6割にとどまっています。このため、生産者や事業者による食の安全の確保はもとより、関係機関の連携により食品や食材の健康への影響について情報共有と透明性が確保された情報提供を行います。同時に、自ら食に関する知識を習得し、食を選択できる賢い消費者の育成を目指します。

また、災害に対する備えへの情報提供や、災害時の食事支援体制を整備するとともに、災害時の過酷な状況下で命をつなぐためにも、日ごろからの体力づくり、健康づくりが大切であることを啓発します。



目標
IV

「食文化を守り、育てる」ために

食の欧米化等により、日本型食生活が崩れてきていますが、日本の食文化や郷土の食材、伝統料理があらためて見直されています。また、海外依存による*食料自給率の低下が問題となっています。

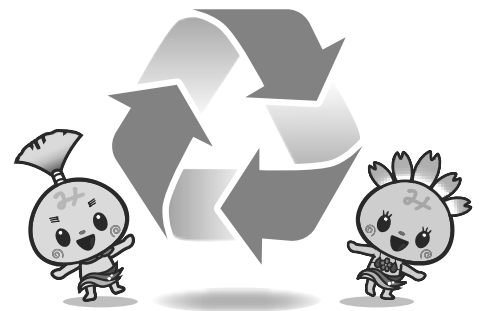


現在、“地産地消・*旬産旬消”の認知度は高くなってきていますが、今後も日本型食生活の再認識と“地産地消・旬産旬消”を推進し、地域固有の食習慣、食文化の継承を目指し、その実践のため、支援の充実を図ります。

目標
V

「環境を未来に引き継ぐ」ために

家庭における食事の食べ残しや、作りすぎから出る食品残さや、食品事業者における生ごみの問題等、食に関するエネルギーの消費や食料輸送に伴う環境負荷など、私たちの食生活を支えるために発生する環境問題が社会的な課題となっています。



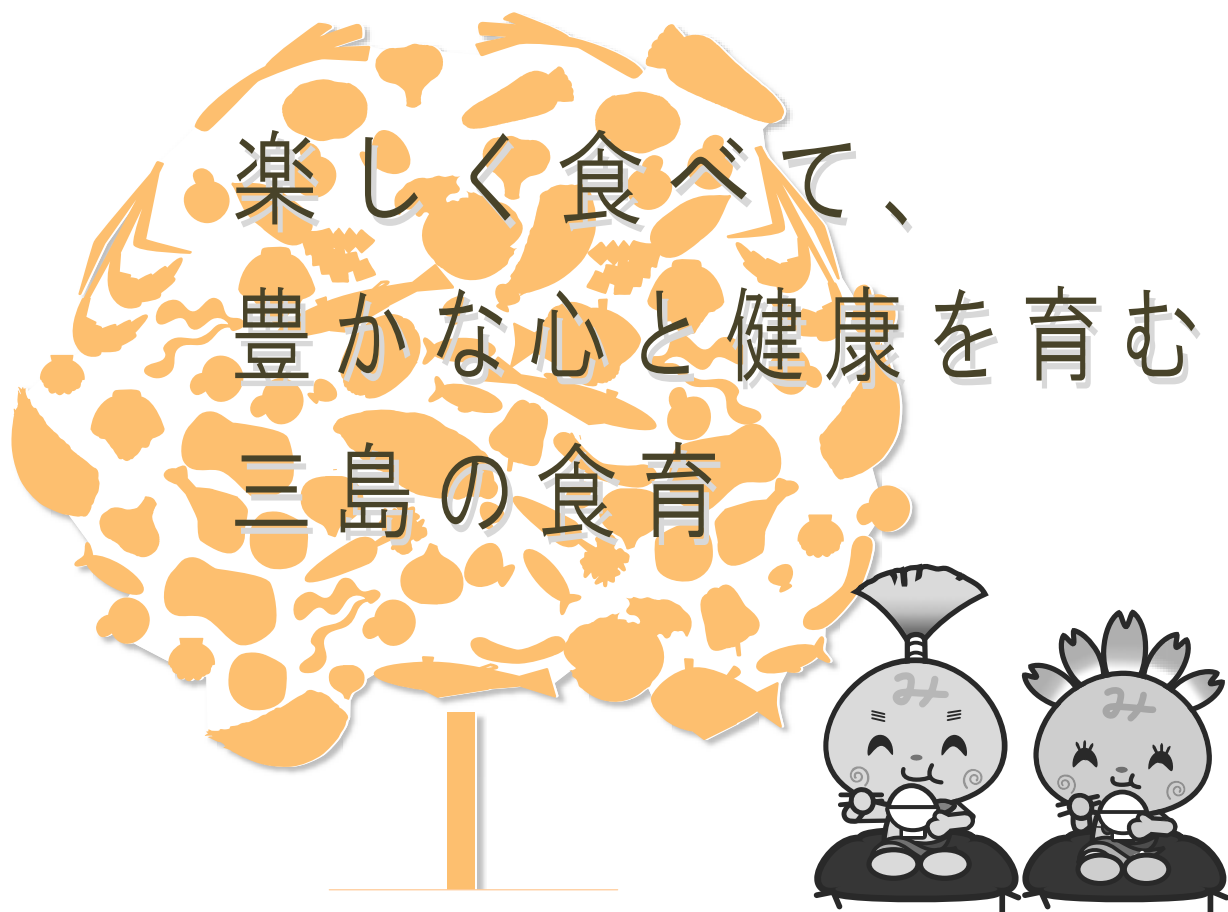
現状では、食べ残しを減らす努力をしたり、作りすぎに注意している人は約9割を占めていますが、今後も、自然の恵みに感謝する心を育成し、一人ひとりが食材を無駄にすることなく、環境にやさしい食生活が実践できるよう、環境教育の充実を目指します。

2 長期的な目的（スローガン）

三島市では、「食育」を生涯にわたるテーマとし、第1次計画から引き続き、健康の維持・増進、心の育成、食の安全性の確保、食文化の継承、環境の保全の5つの目標を掲げ、「食育」を推進します。

また、いきいきとしあわせに過ごすためには、心身共に「健康」であることが基本であり、すべての市民が自らの健康を守るため、胎児期・妊娠期から高齢期に至るすべてのライフステージで「食育」を実践していくことが望まれます。

本市には、富士山からの清らかな「湧水」と箱根西麓のおいしい野菜など、風土に適し、親しまれてきた食文化があります。こうした地域の食を子どもから大人まで皆で楽しみながら学ぶことで、「食」に関する適切な判断力を身に付け、健康につながる食育を実践していくことを目指し、「楽しく食べて、豊かな心と健康を育む三島の食育」をスローガンに掲げ、市全体で食育に取り組みます。

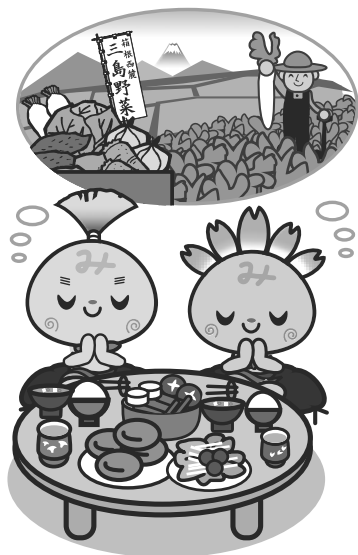
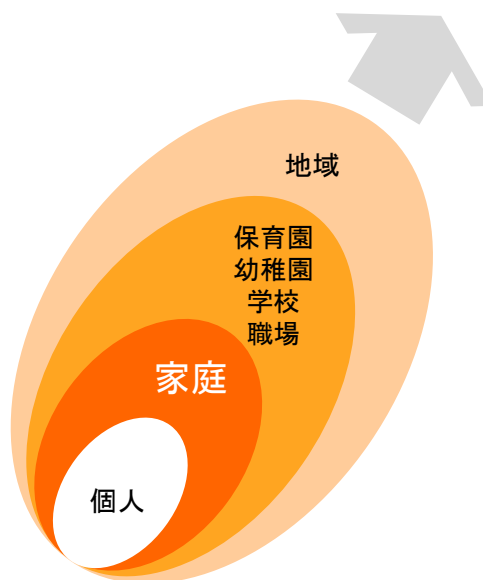


3 推進主体

(1) 実践の場の確保

長期的な目的（スローガン）である「楽しく食べて、豊かな心と健康を育む三島の食育」の実現のため、食の重要性を認識し、個人はもとより、最も重要な家庭において主体的に食育が実践されるよう啓発します。さらに、食育を全市的な活動として拡大していくことが不可欠なことから、保育園や幼稚園、小中学校など保育・教育の場や事業所等の職場をはじめ、地域社会のあらゆる場で積極的な取り組みがなされるよう実践の場や機会の確保を進めます。

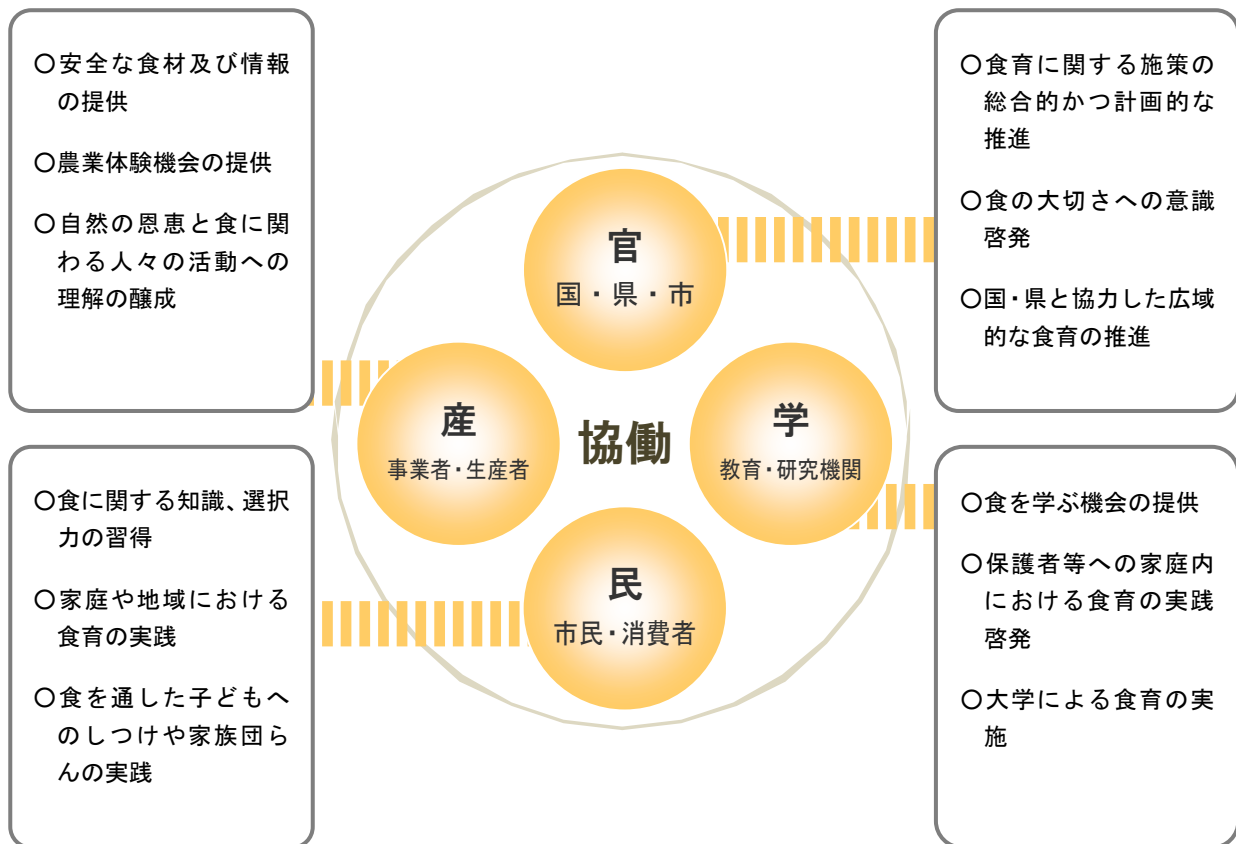
実践の場・食育への
取り組みの広がり



(2) 産・官・学・民との協働による推進

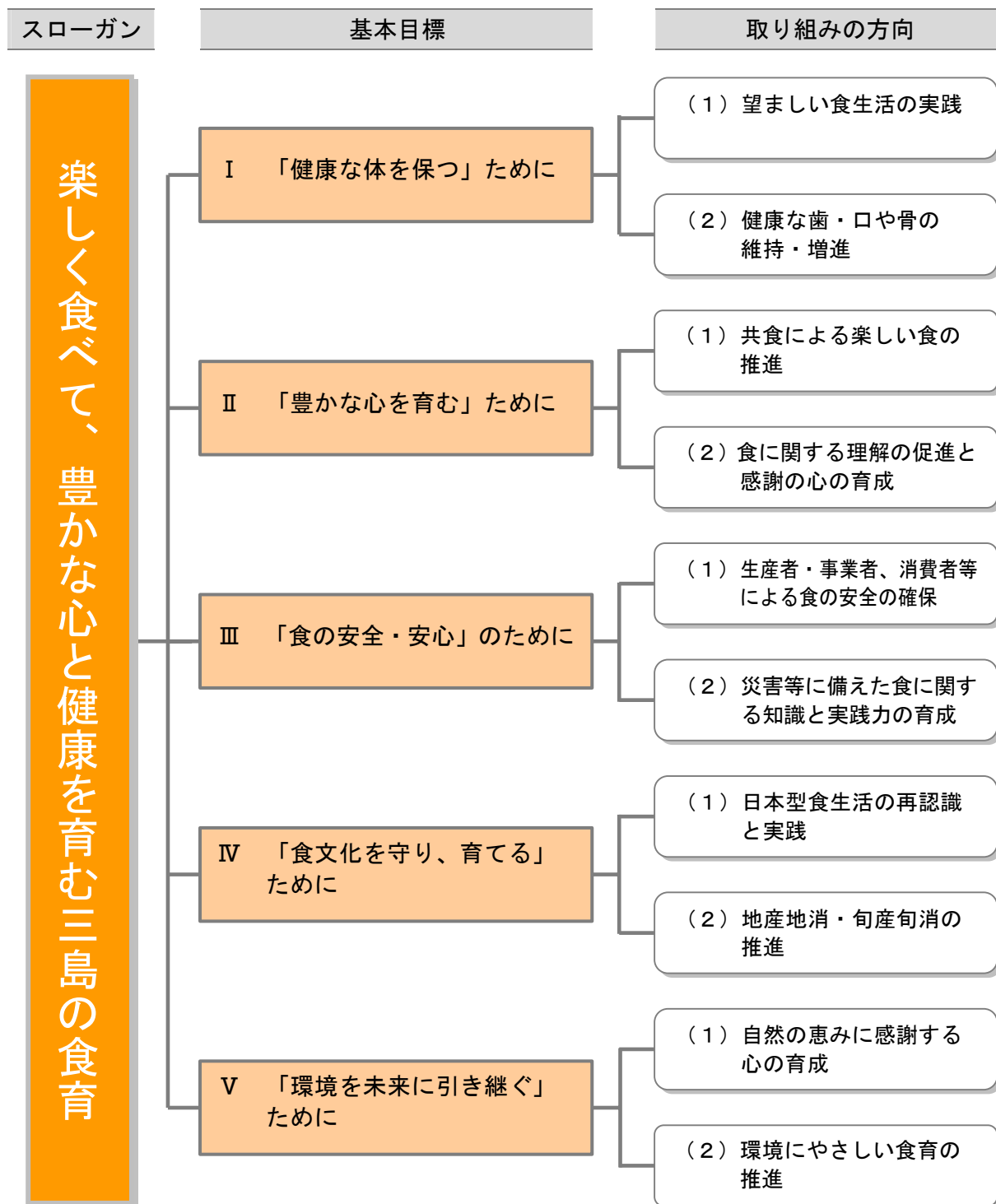
食育を市民運動として定着させていくためには、市民、事業者・生産者、行政の各主体がそれぞれの役割を果たすとともに、一丸となって取り組むことが必要です。また、三島市には食物栄養専門の学科を備える大学があることから、このような学術研究機関の持つ専門的知識やノウハウを市民に還元できるよう連携を深めていくことが大切です。

そこで、「協働のまち 三島」として、産（事業者・生産者）、官（国・県・市）、学（教育・研究機関）、民（市民・消費者）の連携・協働により、市民一人ひとりが「健やかで幸せ」と感じられる“健幸”都市みしまづくりの一環として、食育を全市的に広げていきます。



4 推進体系

基本目標ごとに取り組みの方向を示します。



5 数値目標

(1) 第2次計画全体の目標

第2次計画全体の目標

指標名称	食育に関心のある人の割合		
対象	成人		
現状値	73.3%	目標値	90.0%以上
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

(2) 第2次計画基本目標別の目標

①「健康な体を保つ」ために

指標名称	肥満傾向の児童・生徒の割合		
対象	児童・生徒		
現状値	7.1%	目標値	6.5%以下
数値根拠	三島市学校保健会「三島のこども」		

指標名称	肥満（BMI 25以上）の割合						
対象	40歳以上 男性	対象	40歳以上 女性				
現状値	23.8%	目標値	20.0%以下	現状値	19.3%	目標値	15.0%以下
数値根拠	三島市国民健康保険 特定健康診査						

指標名称	朝食を毎日食べる人の割合		
対象	20歳代		
現状値	68.3%	目標値	85.0%以上
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

指標名称	バランスのとれた朝食を食べている幼児・児童・生徒の割合		
対象	幼児・児童・生徒		
現状値	43.8%	目標値	80.0%以上
数値根拠	静岡県教育委員会 朝食摂取状況調査		



指標名称	食事バランスガイド等を参考に食生活を送っている人の割合		
対象	20歳以上		
現状値	19.5%	目標値	30.0%以上
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

指標名称	よく噛んで味わって食べている人の割合		
対象	成人		
現状値	51.1%	目標値	80.0%以上
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

指標名称	メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している人の割合の増加		
対象	成人		
現状値	41.5%※	目標値	50.0%
数値根拠	—		

※現状値は第2次食育推進基本計画における国の数値です。

②「豊かな心を育む」ために

指標名称	調理体験を実施している幼稚園・保育園の割合		
対象	3歳以上児対象の幼稚園・保育園		
現状値	91.7%	目標値	100.0%
数値根拠	三島市健康づくり課調査		

指標名称	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加		
対象	成人		
現状値	—	目標値	週10回以上
数値根拠	—		

③「食の安全・安心」のために

指標名称	食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている人の割合		
対象	20歳以上		
現状値	61.9%	目標値	80.0%以上
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

④「食文化を守り、育てる」ために

指標名称	学校給食における地場産物を使用する割合		
対象	食材数ベース		
現状値	38.0%	目標値	40.0%以上
数値根拠	三島市教育委員会 学校教育課調査		

⑤「環境を未来に引き継ぐ」ために

指標名称	食べ残しを減らす努力をしたり、作りすぎに注意している人の割合		
対象	成人		
現状値	88.0%	目標値	100.0%
数値根拠	三島市の食育推進に関する調査		

